

## 參考資料

## 参考資料 目次

<b>1 首里城復興基本計画に係る主な関係部局等 .....</b>	<b>資料-1</b>
<b>2 首里城復旧・復興に関する県の体制・方針等 .....</b>	<b>資料-10</b>
(1) 首里城復旧・復興推進本部会議 .....	資料-10
(2) 首里城復興基本計画に関する有識者懇談会 .....	資料-11
(3) 首里城火災に係る再発防止検討委員会 .....	資料-22
(4) 第32軍司令部壕保存・公開検討委員会 .....	資料-23
(5) 首里城復興の基本的な考え方 .....	資料-24
(6) 首里城復興基本方針 .....	資料-26
(7) 沖縄県首里城復興基金の活用に関する方針 .....	資料-34
<b>3 県民等意見の聴取 .....</b>	<b>資料-35</b>
(1) 令和の首里城復興 Zoom 座談会 .....	資料-35
(2) 「首里城復興基本計画(素案)」に対する意見募集 .....	資料-38
<b>4 首里城復興への取組状況 .....</b>	<b>資料-39</b>
<b>5 国及び関係機関の体制・方針等 .....</b>	<b>資料-46</b>
(1) 首里城復元に向けた技術検討委員会(国) .....	資料-46
(2) 首里城復元に向けた基本的な方針(国) .....	資料-50
(3) 首里城正殿等の復元に向けた工程表(国) .....	資料-51
(4) 首里城美術工芸品等管理委員会((一財)沖縄美ら島財団) .....	資料-54
<b>6 用語集 .....</b>	<b>資料-55</b>



基本施策	施策展開関係部等							関係機関						
施策展開	知事	総務	企画	生活	子福	農水	商工	ス	文	土	教	那		美
施策の方向性	室	部	部	部	部	部	部	ポ	化	木	育	市	国	ら
主な役割								ツ	観	建	庁			島
								部	光	築				財
										部				団

2 火災の原因究明及び防火設備・施設管理体制の強化	施策展開(2)									土			那	国	美
	施策の方向性(4)									7			1	2	1
	主な役割(7)														

(1) 再発防止に向けた防火設備等の強化										土				国	
----------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	--	--	--	---	--

① 想定される様々な出火要因を踏まえた新たな防火対策等の実施										土					
--------------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	--	--	--	--	--

ア 想定される様々な出火要因を踏まえた新たな防火対策等の実施										○					
--------------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	--	--	--	--	--

② 首里城公園全体の防火対策の強化										土				国	
-------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	--	--	--	---	--

ア 県営公園区域内における防火対策の検討・実施										○					
-------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	--	--	--	--	--

イ 国と連携した国営・県営公園区域の防災センター機能の再編										○					
-------------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	--	--	--	--	--

・ 国営公園内における防火対策の検討・実施(防災・防火設備の整備等)														○	
------------------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	--

(2) 安全性の高い施設管理体制の構築										土			那	国	
---------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	--	--	---	---	--

① 首里城火災に係る再発防止策の策定										土					
--------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	--	--	--	--	--

ア ハードとソフトが密に連動した総合的な対策を講じた管理体制の構築										○					
-----------------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	--	--	--	--	--

イ 検討委員会の検討結果を踏まえた再発防止策の策定										○					
---------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	--	--	--	--	--

② 国等と連携した施設管理体制の構築										土			那	国	
--------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	--	--	---	---	--

ア 再発防止策を具体化する管理計画等の検討										○					
-----------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	--	--	--	--	--

イ 管理・運用する人材の教育・訓練等を考慮した適切な管理体制の構築										○					
-----------------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	--	--	--	--	--

・ 防火対策・管理体制構築に関する県等関係機関との緊密な連携														○	
--------------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	--

・ 首里城公園における防火対策に関する管理者との連携													○		
----------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	--	--

・ 管理・運用する人材の確保や教育・訓練															○
----------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---

※当該基本施策において沖縄美ら島財団は計画策定時点での指定管理者として位置づけ

基本施策	施策展開関係部等										関係機関	
施策展開	知事	総務	企画	生活	農水	商工	スポーツ	文化	土木	教育	那覇	美ら島
施策の方向性	公室	部	部	部	産部	産部	部	観光部	部	庁	市	財団
主な役割												

3 首里城公園のさらなる魅力の向上	施策展開(2)												
	施策の方向性(4)							文	土	教		国	美
	主な役割(8)							1	6	1		3	2

(1) 国営・県営区域の一体的利用										土	教		国	美
-------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	---	--	---	---

① 首里城公園全体の魅力向上										土			国	美
ア 施設整備や利用動線、展示や案内機能の向上										○				
・ 県等と連携した首里城公園全体の魅力向上の取組													○	
・ 国、県と連携した首里城公園全体の魅力向上の取組														○
② 中城御殿跡の整備と展示・収蔵等機能の拡充										土				
ア 中城御殿跡の整備と展示・収蔵等機能の拡充										○				
イ 焼失・被災した文化財等の復元及び復元に関する情報の収集										○				
③ 県営公園区域内の文化遺産等の整備										土	教		国	
ア 松崎馬場、龍潭周辺等の整備										○				
イ 円覚寺跡の整備											○			
・ 首里城公園における施設整備や利用運営・管理体制等に関する連携													○	

(2) 多様で柔軟な施設の利活用										文	土			国	美
------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	---	--	--	---	---

① 首里城公園における多様な行催事等の推進										文	土			国	美
ア 琉球・沖縄文化の発信、交流拠点化に向けた国・指定管理者及び関係団体等との連携										○					
イ 国等と連携した公園内の行催事・機能のあり方等の検討											○				
ウ 魅力的で多様な行催事等の推進・促進											○				
・ 魅力的で多様な行催事等の計画的実施の促進														○	
・ 関係団体等と連携した魅力的で多様な行催事等の計画的実施の推進															○

※当該基本施策において沖縄美ら島財団は計画策定時点での指定管理者として位置づけ











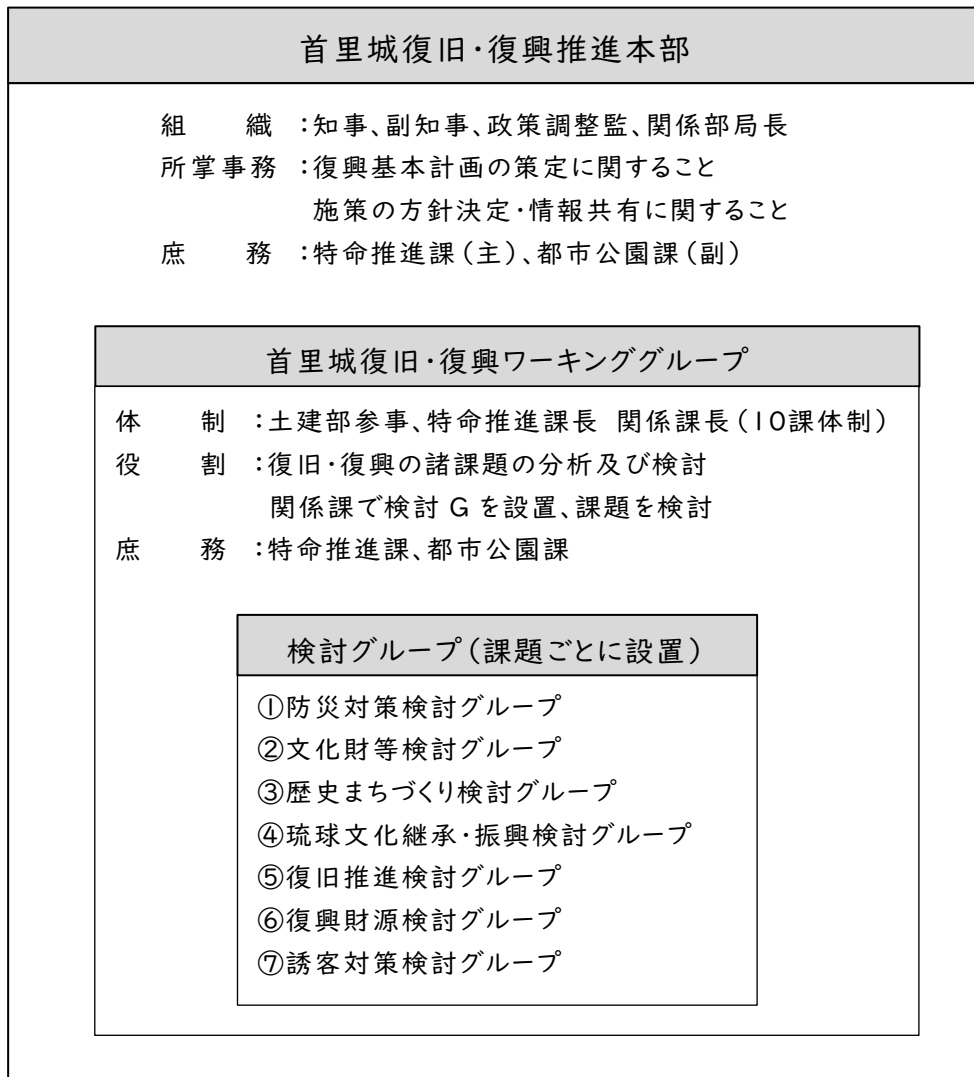




## 2 首里城復旧・復興に関する県の体制・方針等

### (1) 首里城復旧・復興推進本部会議

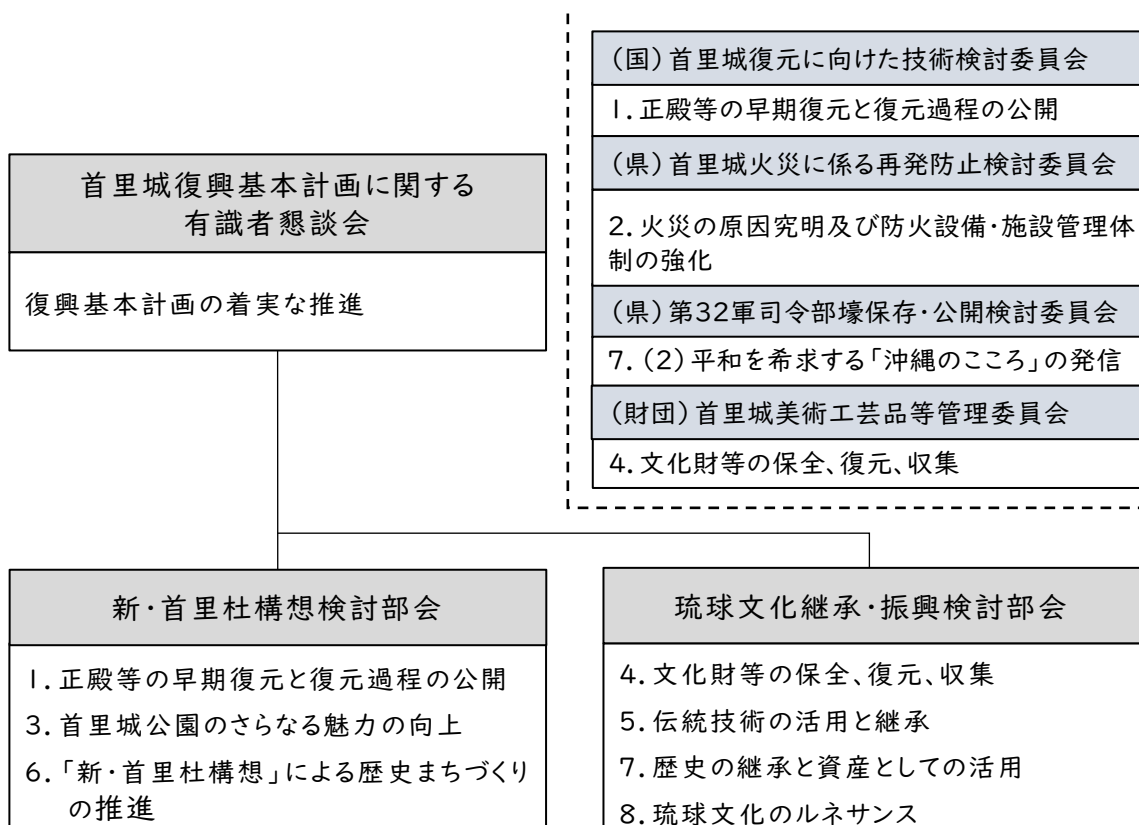
「首里城復興基本方針」(令和2年4月23日沖縄県策定)に基づき、首里城の復旧・復興に向けた積極的な取り組みを全庁的に進めるため、首里城復旧・復興推進本部を設置する。



## (2) 首里城復興基本計画に関する有識者懇談会

### ■ 有識者会議の構成

首里城の復元並びに首里城に象徴される琉球の歴史・文化の復興を沖縄振興につなげていくためには、県庁内部はもとより、国・那覇市等の行政及び産業界等の関係機関や県民をはじめとする多くの人々との短中長期的に連携した取組が重要となってくる。このような取組の推進に必要な課題及び施策の方向性について、有識者から意見を聴取するため、首里城復興基本計画に関する有識者懇談会を開催する。



※項目は担当する基本施策

関係部局一覧		
事務局 沖縄県	沖縄県知事公室	特命推進課
	土木建築部	都市公園課、都市計画・モノレール課、道路街路課
	文化観光スポーツ部	観光振興課、文化振興課
	子ども生活福祉部	女性力・平和推進課
	農林水産部	森林管理課
	商工労働部	ものづくり振興課
那覇市	教育庁	文化財課
	企画財務部	企画調整課
	都市みらい部	都市計画課
	市民文化部	文化財課
	経済観光部	観光課、商工農水課

## ■委員名簿

### 首里城復興基本計画に関する有識者懇談会 名簿(五十音順)

	氏名	所属等
○	安里 昌利	那覇空港ビルディング株式会社 代表取締役社長
	池田 孝之	琉球大学 名誉教授
	崎山 律子	那覇市文化協会 会長
	佐久本 武	一般社団法人 那覇市観光協会 会長
◎	下地 芳郎	一般財団法人 沖縄観光コンベンションビューロー 会長
	田名 真之	沖縄県立博物館・美術館 館長
	玉那覇 美佐子	首里振興会 理事長
	波照間 永吉	名桜大学 教授

◎ 座長 ○ 座長代理

### 新・首里杜構想検討部会 名簿(五十音順)

	氏名	所属等
◎	池田 孝之	琉球大学 名誉教授
	いのうえ ちず	NPO 法人 首里まちづくり研究会 副理事長
	上原 静	沖縄国際大学 教授、沖縄考古学会 会長
	越智 正樹	琉球大学 教授
	神谷 大介	琉球大学 准教授
○	田名 真之	沖縄県立博物館・美術館 館長

◎ 部会長 ○ 部会長代理

### 琉球文化継承・振興検討部会名簿(五十音順)

	氏名	所属
	石原 守次郎	石原守次郎事務所代表
	嘉数 道彦	公益財団法人 国立劇場おきなわ運営財団芸術監督
○	崎山 律子	那覇市文化協会 会長
	鈴木 修司	ゆいまーる沖縄株式会社社長
	平良 美恵子	喜如嘉芭蕉布事業協同組合理事長
◎	波照間 永吉	名桜大学 教授

◎ 部会長 ○ 部会長代理

## ■開催一覧

開催時期	会議	内容
令和2年 9月14日	第1回有識者懇談会 第1回琉球文化継承・振興検討部会 第1回新・首里杜構想検討部会 合同会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 首里城復興基本方針に基づく今年度の沖縄県の取組状況</li> <li>・ 施策の現状と課題の整理</li> <li>・ 有識者懇談会の進め方</li> </ul>
10月23日	第2回琉球文化継承・振興検討部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 琉球文化のルネサンスの捉え方について</li> <li>・ 首里城復興基本計画(たたき台)について</li> </ul>
10月28日	第2回新・首里杜構想検討部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新・首里杜構想の策定について</li> </ul>
11月27日	第2回有識者懇談会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各部会の内容を踏まえた首里城復興基本計画(たたき台)に関する総合的な議論</li> </ul>
12月21日	第3回琉球文化継承・振興検討部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 首里城復興基本計画(たたき台)に関する議論</li> </ul>
12月23日	第3回新・首里杜構想検討部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 首里城復興基本計画(たたき台)に関する議論</li> </ul>
令和3年 2月8日	第3回有識者懇談会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 首里城復興基本計画(素案)に関する議論</li> </ul>
3月9日	有識者懇談会からの結果報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 首里城復興基本計画(案)に対する意見</li> </ul>

### 有識者懇談会、検討部会の会議風景



※会議資料や議事録等は県(知事公室特命推進課)ウェブサイトに掲載

<https://www.pref.okinawa.lg.jp/site/chijiko/tokumei/keikakukonndannkai.html>

■「首里城復興基本計画」に関する有識者懇談会における議論結果の報告  
(令和3年3月9日 首里城復興基本計画に関する有識者懇談会)

## 1. はじめに

---

沖縄県は、首里城の復旧並びに首里城に象徴される琉球の歴史・文化復興を沖縄振興につなげるため「首里城復興基本計画」(以下、「復興基本計画」という。)を策定し、その取組を推進することとしている。

このため、県は、取組の課題及び施策の方向性について有識者から意見を聴取するため、令和2年8月26日、「首里城復興基本計画に関する有識者懇談会」(以下、「本懇談会」という。)、個別事項を集中的に議論・検討を行う『「新・首里杜構想検討部会」及び「琉球文化継承・振興部会」』(以下、「部会」という。)を設置したものである。

本懇談会及び部会は、短、中、長期的展望に立った効果的・計画的な施策のあり方について、9月14日に部会を含めた第1回会議に始まり12月23日まで、延べ6回の議論を重ね、意見等してきた。また、令和3年2月8日には、第3回本懇談会において最終的な議論・検討等を行い、本懇談会の意見等の趣旨は、概ね復興基本計画に反映されていることを確認した。

本懇談会及び部会においては、首里城復元過程の公開や県民参加型の復興、いわゆる「見せる復興」の観点からも取り組む必要性や、各施策の実施に必要な県民等との連携・協働体制の確認及び構築が喫緊の課題であるとの意見があった。

また、「まちづくり10年、風景づくり100年、風土づくり1000年」との発言に関し、風土とは、自然、気候、地勢のみならず建造物等の多くの要素を含む一定地域のあり様を示し、文化形成等に影響を及ぼすものとして捉えることができる。これは、まさに沖縄県が目指す「首里城に象徴される琉球の歴史・文化復興」が、相当の期間にわたり取り組まれていくものを示唆するものであり、本懇談会の総意は、県が決意と覚悟を持って首里城復興に取り組んでいくことを望むものである。

さらに、長期的視点の下、短、中、長期、それぞれ段階を踏んで取り組む必要がある課題、特に、文化財を含む美術工芸品等の修復・保全への取組とともに、県内各地に散在する美術工芸品等の管理のあり方等を問う意見は、今後の沖縄全体に係る文化行政に一石を投じるものと考ええる。

以上を踏まえ、この「議論結果の報告」においては、特に重要な事項を挙げる「総括」並びに「基本施策の推進にあたり留意すべき事項」として、取りまとめたところである。県においては、本懇談会の議論結果を、復興基本計画に係る取組の実施にあたっての心構え・指針として捉え、着実な推進に向け必要な措置を講じるなど、適切に対応していただきたい。



## 2. 総括

沖縄県が策定する今般の復興基本計画は、「万国津梁（世界の架け橋）として独自の発展を築いてきた琉球の象徴である首里城を捉え、その復元はもとより、首里城に象徴される歴史・文化の復興」<sup>\*1</sup>への取組の方向性等を体系的に定め、計画的な推進を目的としている。

また、復興基本計画は、首里城に象徴される歴史・文化の価値を確実に次世代へ継承し、それぞれの時代にふさわしい新たな文化創出など、沖縄発展の礎としての首里城復興を未来を見据え、県民はじめ多くの人びと、関係行政機関を含めた様々な主体間で共有・連携・協働して、段階的かつ継続的に取り組んでいく旨、明記している。

本懇談会は、上記2点を県が首里城復興に取り組んでいく際の本質的な視点と捉え、次に示す5項目を特に重要事項として整理した。

### **(1) 復興基本計画の各施策の展開にあたり、県内各地域・県民等の参加による首里城復旧、文化復興の機会を創出していく必要がある。**

今回の首里城復旧・復興は、国内外で世代を超えた人びとの関心とともに、復旧はもとより、首里城に関連する各地やそれぞれの歴史・文化的活動及び行催事など、何らかの形で復興に関与したいという思い（参加意欲）は高いものがある。これら関心と意欲を継続させる仕組みづくりが、極めて重要である。このため、県は、各施策の事業化の段階から県民等の参画と共に、例えば、首里城復旧・復元に県内各地の伝統工芸等技術者の活用、「首里城正殿の復元に使用する用材」<sup>\*2</sup>の切り出しや「大龍柱の石材」<sup>\*3</sup>運び出しに当たり、現地及び首里城において、各地の伝統芸能等も合わせた県民等参加による儀礼・行催事等を実施するなど、県内各地域等と一体となり県民等が参加する仕組みづくりに努め、各種事業を積極的に推進していく必要がある。

\*1 首里城復興の基本的な考え方（令和元年12月26日沖縄県発表）

\*2 沖縄県と内閣府沖縄総合事務局は、沖縄県が調達するとして「首里城正殿復元工事に用いる大径材」のうち、「小屋丸太梁」について、石垣市及び国頭村から調達することを令和2年9月30日付けて変更合意した。

\*3 平成の復元において大龍柱の石材は、与那国町から調達した。今回の復元にあたっての調達先は調査中（令和3年2月現在）である。

**(2) 北殿及び南殿等を含めた首里城公園を一体として捉えた利活用のあり方について、沖縄県が中心となり県民等参画の上で検討し、国と連携し整備等を推進する必要がある。**

首里城正殿を始め、北殿及び南殿等の城郭内施設は、国が主導して復旧されることになっている。ところで、歴史的資料を基に施設内部も含めて厳格に復元される正殿と異なり、北殿及び南殿は外観の復元が中心である。両施設の復旧については、両施設が果たす役割・機能等を踏まえ、「首里城正殿等の復元に向けた工程表<sup>\*4</sup>」に従い、今後、決定されていくものと承知している。これに関し、県が中心となり、関係団体等を含む県民等と連携・協働し、北殿及び南殿等城郭内施設に加え、中城御殿跡、円覚寺跡や玉陵等を含めた首里城公園を面として捉え、全体的な機能、活用方法の検討を行い、県民等参画による首里城復元・整備等を国と連携して取り組んでいく必要がある。

**(3) 文化財を含む美術工芸品（以下、「美術工芸品等」という。）の修復等に係る県内環境の整備及び県内各地に所在する首里城関連の美術工芸品等の管理のあり方等について、沖縄県がリーダーシップを発揮し、総合的に検討し、取り組んでいく必要がある。**

今回の火災で被災した漆器類の修復に関し、高度な修復技術を持つ人材は国内を見ても限られることから、その修復は、長期的な取組になると推測される。また、国内外、特に国外に所在する沖縄関連美術工芸品等については、修復等が必要なものが少なくないとされている。これらを背景に沖縄県は、復興基本計画において、漆芸等技術者の育成・確保や美術工芸品等保存修復技術の習得に関する体制整備、沖縄関連美術工芸品等の修復環境の将来的な整備を見据え、条件を整理していく等に取り組むこととしている。

この上で、第一に、美術工芸品等保存修復技術の習得には相当の期間を要することを踏まえ、長期的視点に立ち県立芸術大学等と連携・協働した人材育成及び研究基盤の構築に段階的に取り組み、将来的には美術工芸品等の修復を沖縄県内で一元的に行えるよう、課題や条件整備等を検討していく必要がある。

第二に、一般的に美術工芸品等の管理は、その所有者が行っており、例えば、国宝「琉球国王尚家関係資料」は那覇市が所有・管理し、国指定重要文化財「銅鐘（旧首里城正殿鐘）」は沖縄県が所有し、県立博物館・美術館が管理している。さらに、県指定文化財について、多くは市町村を始め個人が所有・管理等している。また、被災した美術工芸品の多くは一般財団法人沖縄美ら島財団が所有・管理し、現在、修復にあたっている。一方、復興基本計画は、首里城に関連する美術工芸品等の展示・収蔵等する機能も含め中城御殿跡の復元・整備を検討・実施することとしている。このため、県は、首里城に関連する美術工芸品等の一元管理

---

\*4 2020年3月27日、国が首里城復元のための関係閣僚会議において策定。

等のあり方について、リーダーシップを発揮し、専門家、関係者・機関等を含めた総合的な検討・論点整理を行い、条件を整備していく必要がある。

なお、平成の首里城復元及び今般の復元に係る様々な資料等を一元的に収集・管理することは、後世に記録を引き継いでいく観点からも重要であり、県は、主体的に国等関係者へ働きかけ、一元化に取り組んでいく必要がある。

**(4) 新・首里杜構想の下、沖縄県が中心となり、地域住民を含めた推進体制を確立し、それぞれの役割分担及び連携・協働して、生活と調和のとれた歴史・文化を体現できる環境(まちなみ)整備を着実に推進していく必要がある。**

沖縄県及び那覇市等では、「首里杜構想」<sup>\*5</sup>の下、35年以上にわたり様々な取組が実施されてきた。この首里杜構想は、首里城城郭内、それを取り囲む城郭外の首里城公園、さらにその外苑の首里のまちなみの三重構造で成り立っている。しかしながら、それぞれにおいて多様な主体が関係し、その連携等の体制や、城郭外公園内も含めた文化財等の整備及びまちなみに関する取組は、必ずしも十分とは言えないものだったと指摘せざるを得ない。このため、復興基本計画に基づく新・首里杜構想の推進にあたっては、県が中心となり、地域住民、首里杜地区まちづくり団体連絡協議会<sup>\*6</sup>等、事業者、那覇市及び国等関係機関との体制を構築する必要がある。加えて、体制を確実に機能させることで、それぞれの役割分担及び連携・協働して計画的かつ着実な推進に向け取り組む必要がある。

---

\*5 昭和59年(1984年)、沖縄県が「首里城公園基本計画」の中で「首里杜構想」として、首里城を中心とした首里のまちなみ保全を示したもの。

\*6 首里杜構想で定義する首里杜地区内にある6つのまちづくり団体によって令和2年6月に設立。まちづくりの調査・議論やシンポジウム等の活動を通して、地域住民の意見を集約している。

**(5) 国との連携・支援を含め、首里城復興基本計画を着実に推進していく仕組みづくりが必要である。**

第一に、復興基本計画は、首里城正殿等の復元工程及び新たな沖縄振興計画で目される期間を踏まえ、令和2年度から令和13年度(2031年度)までの12年計画になっている。しかしながら、復興基本計画は、「正殿等の早期復元」のみならず、「文化財等の保全、復元、収集」及び沖縄の歴史及び文化の再評価と普遍的価値の再発見による新たな文化創造、いわゆる「琉球文化のルネサンス」等を目指しており、その施策成果の発現には相当期間が見込まれ、長期的視点を持って順次課題に取り組んでいく必要がある。このため、本復興基本計画は第一期の取組と位置づけ、適宜、復興基本計画を改定し、戦略的に第二期、第三期と継続して取り組んでいく必要がある。

第二に、県においては、新たな沖縄振興計画に復興基本計画の基本施策を反映させ、その実施計画の取組において進捗管理を行うとしている。また、このことは、復興基本計画の基本施策を国の沖縄振興策の一つとして位置づけ、その推進に関して国との連携及び国からの各種支援の根拠となるもの、と期待している。その一方で、首里城復興は、新たな沖縄振興計画の期間を超える長期にわたり取り組まれる事項も含んでいることから、その推進にあたっては、沖縄振興計画の評価の枠組みにとらわれず、より実効性のある進捗管理に取り組んでいく必要がある。

第三に、県は、沖縄振興制度に加えて、多様な財源の確保も含めその他各種制度を積極的に活用し、復興基本計画を効果的に実施していく必要がある。また、県は、国内外からこれまでに寄せられた寄附金について、首里城正殿の木材・赤瓦調達や大龍柱等城郭内施設の復元に活用<sup>\*7</sup>するとしている。一方、復興基本計画は、中城御殿跡、円覚寺跡等重要な文化財の整備、琉球王朝時代より継承される伝統技術・技能のさらなる蓄積・向上、担い手の育成、琉球文化の普遍的価値の再認識など、城郭外に係る様々な取組が掲げられている。これら文化復興に関する取組に関し、「中城御殿跡や円覚寺跡等歴史・文化施設等の整備」、「復興基本計画に係る芸能・工芸担い手育成の取組」など、寄附金の用途を選択制にすることで、県民等との連携・協働の形を見える化するなど、復興基本計画推進に係る新たな寄附金に取り組む必要がある。

---

<sup>\*7</sup> 沖縄県は、一日も早い首里城火災からの復興を願う国内外からの寄附金の活用について、令和2年7月30日に「沖縄県首里城復興基金の活用に関する方針」を策定。

### 3. 基本施策の推進にあたり留意すべき事項

#### 基本施策1 正殿等の早期復元と復元過程の公開

- ◆ 首里城の将来の修繕や改築に向け、県や市町村が行っているイヌマキやオキナワウラジログシの植樹、育樹等を県民運動として取り組んでいく必要がある。
- ◆ 首里城の屋根の龍頭棟飾等の製作は、県内の伝統工芸技術が生かされるべく、県は、組合や技術者と連携して、国の進める復元に積極的に関与していく必要がある。
- ◆ 「見せる復興」に関し、復元作業の進捗により日々変化していく「今しか見られない」機会を歴史・文化の学習に生かすとともに、文化観光としても取り組んでいく必要がある。

#### 基本施策2 火災の原因究明及び防火設備・施設管理体制の強化

- ◆ 最新技術を活用した「省人化」のシステムも重要だが、最終的にはそれらを使う人の配置や連絡体制の構築など、人間の力が大切であることを踏まえた取組が必要である。
- ◆ 日頃の管理体制は指定管理者が行っていることから、その「役割」を明示し、想定される様々な出火要因に対応する「訓練」を明確に位置づけ、目に見えた取組とする必要がある。

#### 基本施策3 首里城公園のさらなる魅力の向上

- ◆ 首里城城郭内施設や玉陵など、首里城公園及びその周辺の歴史・文化施設と交通機関等の入場・交通料金等をパッケージ化する各機能の一体的な運営など、首里城公園及びその周辺地域の魅力向上につなげる仕掛け作りが必要である。
- ◆ 首里城公園に県民が親しみを持つためには、その利活用にあたって、より柔軟な運用を可能とする条件の整備が必要であり、県民等参画による検討を進め、国に対し積極的に働きかけていく必要がある。

#### 基本施策4 文化財等の保全、復元、収集

- ◆ 首里城の歴史・文化をさらに掘り下げ、さらなる魅力を見いだす研究とともに、これを次世代につないでいく人材育成の視点を加味して、復興基本計画で掲げる中城御殿跡の整備及び運営体制を検討していく必要がある。
- ◆ 長期的視点に立ち、文化財等美術工芸品の修復など、首里城復興に関連した取組に関する県立芸術大学の役割等について、課題、解決方法等を議論するため、復興基本計画期間内に県、大学等関係者及び専門家等による委員会等を立ち上げ取り組んで行く必要がある。

## 基本施策5 伝統技術の活用と継承

- ◆ 焼失・被災した文化財等美術工芸品の復元及び修復に当たっては、その多くを所有する一般財団法人沖縄美ら島財団に一任するのではなく、大学等の研究機関や離島在住を含めた技術者との協働により推進していくことを目指し、沖縄県が、同財団と技術者等をつなぐシステム、体制づくりを主導していく必要がある。
- ◆ 中長期的な取り組みとして、伝統工芸技術者の育成、技術の伝承・継承に関し、既存の産地組合単体の強化に加え、各産地組合が有機的なつながりを持ち展開していくことを目指す伝統工芸全般を統括する仕組みのあり方等を検討していく必要がある。

## 基本施策6 「新・首里杜構想」による歴史まちづくりの推進

- ◆ 首里杜構想は風景づくりであり、10年、20年ではなく、100年後など、超長期を見据え、具体的な取組を検討する必要がある。
- ◆ 中城御殿跡、円覚寺跡、松崎馬場跡や御茶屋御殿など、重要な文化財について、専門委員会を設置し、段階的整備に向けたロードマップを作成し、取り組む必要がある。
- ◆ 首里杜地区の住民・事業者等や観光・交通事業者等と協働して交通環境の目標水準を設定していく体制の構築が必要である。

## 基本施策7 歴史の継承と資産としての活用

- ◆ 首里地域には、歴史・文化的遺産や食を含めた伝統的な産業等が近接して点在しており、これを線、又は面として捉え、周遊を促すことが重要である。このため、全体を歴史・文化面を中心として歴史上の出来事等を物語化し発信するとともに、那覇市、事業者、団体等の関係者が一体となりつつも、それぞれが特徴を発揮して主体的に取り組んでいく仕組みの構築が必要である。
- ◆ 首里城及びその周辺には第32軍司令部壕のみならず、留魂壕等の戦争遺跡が存在しており、平和を希求する「沖縄のこころ」の発信として、これらをどのように位置づけ、保存・活用していくかなど、全体的な議論・検討に取り組んでいく必要がある。

## 基本施策8 琉球文化のルネサンス

- ◆ しまくとぅばの復興は文化の復興に不可欠であり、学校教育の場における「しまくとぅば教育」を制度的に位置づけるなど、学校単体ではなく、組織的に取り組んでいく必要がある。
- ◆ 県立博物館・美術館、那覇市歴史博物館、浦添美術館、国立劇場おきなわなど、点として存在する拠点を線として結び合わせることで、琉球文化の発信力を

充実、強化していく仕掛け作りが必要。

- ◆ 伝統工芸技術者の経済的な安定を確保するため、ものづくりを中心としつつもそれ以外にも稼ぐ力が重要であり、観光業等との連携等異業種交流を促進し、新たな展開につなげていく必要がある。

### (3) 首里城火災に係る再発防止検討委員会

首里城火災に関する警察や消防の調査結果を踏まえ、首里城火災に関する事実関係を整理するとともに、首里城正殿等が全焼等に至った要因を整理・分析し、首里城火災の再発防止策として、首里城正殿等の防火対策に関連する県営公園区域の防火対策や県管理区域の管理体制のあり方を検討するため、「首里城火災に係る再発防止検討委員会」を設置する。

#### ■委員名簿

	氏名	役職名
委員長	阿波連 光	弁護士
委員	関澤 愛	東京理科大学研究推進機構総合研究院教授
委員	野崎 聖子	弁護士
委員	長谷見 雄二	早稲田大学理工学術院創造理工学部建築学科教授
委員	蓑茂 壽太郎	東京農業大学 名誉教授

事務局：沖縄県土木建築部都市公園課

#### ■開催一覧

開催時期	会議	内容
令和2年 3月18日	第1回首里城火災に係る再発防止 検討委員会	・ 委員長選出 ・ 首里城火災の状況 ・ 今後の進め方
4月6日	第2回首里城火災に係る再発防止 検討委員会	・ 現場視察 ・ 今後の進め方 ・ 那覇市消防局との意見交換
8月21日	第3回首里城火災に係る再発防止 検討委員会	・ 進捗状況の確認 ・ 中間報告に向けて ・ 再発防止策の検討に向けて
9月11日		・ 中間報告書を公表
11月25日	第4回首里城火災に係る再発防止 検討委員会	・ 調査等の進捗確認 ・ 再発防止策の検討 ・ 今後の進め方
令和3年 1月19日	第5回首里城火災に係る再発防止 検討委員会	・ 調査等の進捗確認 ・ 報告書(案)の検討
3月17日	第6回首里城火災に係る再発防止 検討委員会	・ 調査等の進捗確認 ・ 報告書(案)の検討

※会議資料や議事録等は県(土木建築部都市公園課)ウェブサイトに掲載

<https://www.pref.okinawa.jp/site/doboku/koen/shuricatsle-wg/relapseprevention.html>



#### (4) 第32軍司令部壕保存・公開検討委員会

第32軍司令部壕の保存・継承及び公開に向けて、その取組に必要な課題及び施策の方向性について、有識者から意見を聴取するため、「第32軍司令部壕保存・公開検討委員会」を設置する。

##### ■委員名簿

	氏名	役職名
委員長	玉城 辰彦	ていだ法律事務所弁護士
委員	下地 貴子	沖縄コンベンションビューロー受入事業部長
委員	吉浜 忍	元沖縄国際大学教授
委員	大城 和喜	元南風原文化センター館長
委員	佐々木 靖人	土木研究所地質監
委員	伊東 孝	琉球大学教授
委員	小泉 淳	早稲田大学名誉教授
委員	宮良 吉雄	首里自治会長連絡協議会会長
委員	仲泊 和枝	沖縄平和協力センター理事長
委員	永井 義人	沖縄 IT イノベーション戦略センター専務理事

##### 事務局

沖縄県 子ども生活福祉部 女性力・平和推進課  
保護・援護課  
沖縄県 土木建築部 都市公園課  
沖縄県 教育庁 文化財課  
那覇市  
技術支援業務受託者

##### ■開催一覧

開催時期	会議	内容
令和3年 1月22日	第32軍司令部壕保存・公開検討 委員会	・ 委員長選出 ・ それぞれの専門分野の意見 ・ 今後の委員会の進め方

※会議資料や議事録等は県（子ども生活福祉部女性力・平和推進課）ウェブサイトに掲載  
<https://www.pref.okinawa.jp/site/kodomo/heiwananjo/heiwa/32gghozonkentouinkai.html>

## (5) 首里城復興の基本的な考え方

### 首里城復興の基本的な考え方

2019年12月26日

沖 縄 県

2019年10月31日未明に発生した火災により、琉球王国の象徴であり沖縄県民の誇りであった首里城正殿を含む建物8棟が焼損した。

首里城は創建から先の大戦まで4度焼失し、幾多の世替わりを経ながらも、人々の強い思いとともに、その都度、復元されてきた。

前回復元時においては、首里城復元期成会が結成され、多くの県民と復元を願う人々のたゆまぬ努力によって、復帰20周年を迎えた1992年に復元され、30年近くの年月を経て、首里城は県民の心の拠り所として、かけがえのない場所となっていった。

今般の火災により焼け落ちていく首里城の姿は、県民のみならず、多くの国民や世界各国の人々に大きな喪失感を与えた。しかしその直後から、首里城の焼失を我がことのように心を痛め、その復元に向けて何かできることはないかと多くの人々が立ち上がり、沖縄県には国内外より激励の声や復興に向けた支援が数多く寄せられている。

かつて琉球は小国でありながらも諸外国に橋をかけるように船を通わせ、近隣国と良好な関係を構築し繁栄を遂げた。首里城の歴史は琉球王国の歴史、まさしく万国津梁（世界の架け橋）として独自の文化を築いてきた歴史そのものである。

沖縄県は、先人達が知恵を結集し、心を一つに復元してきた首里城を再び甦らせるため、政府の「首里城復元に向けた基本的な方針」等を踏まえ、国や那覇市等の関係機関と連携のもと、積極的な取組を進める。

そのため、以下の基本的な考え方に基づき、広く県民の声を取り入れながら、首里城の復元はもとより、首里城に象徴される琉球の歴史・文化の復興に取り組むこととする。

(1) 正殿の早期復元と段階的公開

首里城のシンボルである正殿の早期復元に向け取り組むとともに、復元過程の段階的公開を行い、首里城の「過去（歴史）」を知り、「現在」を感じ、新たな「未来」に思いを馳せることができる場を目指す。

(2) 火災の原因究明及び防火・施設管理体制の強化

火災の原因究明及び防火体制の検証に基づく再発防止に向けた防火設備の強化等、最新技術を取り入れた復元手法の検討を行うとともに、専門家の意見を取り入れ、安全性の高い施設管理のあり方を確立する。

(3) 文化財等の復元及び収集

今回の火災で焼失した貴重な文化財等の復元及び国内外へ散逸した文化財等の収集を行い、次世代へ継承する。

(4) 伝統技術の活用と継承

建物復元に必要となる木材や瓦等の調達に向け取り組むとともに、琉球王国時代より脈々と受け継がれ、蓄積されてきた伝統技術の活用を支援し、その継承に向けての取組を支援する。

(5) 琉球文化のルネサンス

首里城の焼失により、改めてその価値が認識された琉球文化のルネサンスを興し、将来にわたりその価値を高め、ウチナーンチュが誇れる琉球文化を国内外へ発信する。

(6) 世界遺産としての首里城を中心とした歴史的環境の創出

首里城跡（遺構部分）を適正に保全し、世界遺産としての価値が悠久に評価されるよう取り組むとともに、首里城を中心に琉球文化を体現できる場として周辺地域の段階的な整備を検討し、風格ある歴史的環境を創出する。

(7) 歴史の継承と資産としての活用

戦禍等により灰燼と帰しながらも、平和と繁栄の象徴として繰り返し復元されてきた首里城の歴史を、次の世代を担う子どもたちに語り継ぐとともに、首里城の復興を通して、多くの人々の思いや努力が結実していく姿を、文化、教育、観光の資産として活用する。

沖縄県としては、この度の首里城における火災について、多くの方々よりお見舞いの言葉、また、復興に向けての支援が寄せられていることについて改めて感謝するとともに、多くの県民が未来へ希望を持って歩いていけるよう、一日も早い首里城の復興に向け、今後は有識者による議論や県民の声を踏まえて沖縄県の基本方針等を策定し、積極的な取組を進めていくこととする。

## (6) 首里城復興基本方針

### 首里城復興基本方針

令和2年4月23日

沖縄県

#### 1 正殿等の早期復元と復元過程の公開

首里城正殿等の復元については、国が国営公園事業として取り組んでおり、沖縄県は、国の技術検討委員会に参画し、国との連携を図っているところである。

県民に親しまれ、多くの来訪者を魅了してきた首里城正殿等の早期復元及び復元過程の公開に向け、国をはじめ関係機関と連携し、下記の取組を進める。

##### (1) 伝統技術を活用した施設整備

前回復元時から瓦葺や漆の塗り替えなど、首里城内の施設修復に県内職人の技術が生かされており、国の技術検討委員会において前回復元時から沖縄県内に蓄積、承継されている伝統技術の活用を図るべきであるとの報告がなされている。

そのため、国や関係機関と連携のうえ、県内に蓄積、継承されている伝統技術を首里城正殿等の復元に資するための取組を進めるとともに、人材の確保、育成に取り組む。

##### (2) 木材、瓦等の調達に向けた取組

首里城正殿等の復元にあたっては、国の技術検討委員会において、木材、漆、赤瓦を中心にその調達方法等について議論されており、「沖縄在来樹種であるチャギ(イヌマキ)等は調達可能な場合には可能な限り使用することが望ましい」、また「沖縄独特の赤瓦を関係機関と連携し、沖縄本島産の材料を調達するべき」との報告がなされている。

そのため、国や関係機関と連携し、県産材等の調達ができるよう取り組むとともに、赤瓦については、県内の研究機関において、調査研究(原料調査、配合、焼成など)や、仕様・品質管理の確立など、首里城正殿等の早期復元に資するよう取り組む。

##### (3) 復元過程の公開による観光資源等としての活用

首里城は、県民のアイデンティティーの拠り所であるとともに、観光客を含む多くの人々が訪れる重要な施設である。

そのため、国や関係機関と連携し、首里城正殿の遺構の公開や展示、復興イベントなどの取組を戦略的に行う。また、仮設見学通路の設置などを行い、復元過程の公開を行うことで、文化、教育、観光資源として活用し、県民をはじめ国内外の多くの人々が訪れるように取り組む。

## 2 火災の原因究明及び防火設備・施設管理体制の強化

二度とこのような火災による焼失を生じさせないよう、今後想定される様々な出火要因に対応しなければならない。

国は「首里城復元に向けた技術検討委員会」において首里城正殿等における防火設備の強化等を、沖縄県は「首里城火災に係る再発防止検討委員会」において、首里城正殿等の防火対策に関連する県営公園区域の防火体制や安全性の高い施設管理体制について検討しており、再発防止に向け、国と県で連携し、下記の取組を進める。

### (1) 再発防止に向けた防火設備等の強化

今般の火災では、火災の早期発見と初期消火を徹底することの重要性が確認されたことや、首里城が城郭に囲まれた特殊な地形に存在していること等を踏まえた再発防止策を講じることが必要である。

そのため、国は、首里城正殿に、火災の早期発見及び迅速な初期消火のための最先端の自動火災報知設備及びスプリンクラー設備、消防隊の迅速な消火活動を可能にするため、城郭内に消火用の水を送るための連結送水管設備を導入すること、さらに消火のための水源確保のため貯水槽を増設するとともに、関係機関と連携して消火栓の新設を検討するとしている。

また、県は国と連携して、首里城正殿等の防火対策に関連する県営公園区域の防火対策について検討する。

### (2) 安全性の高い施設管理体制の構築

今般の火災では、首里城正殿及びその他施設が全焼等に至ってしまったことから、事実確認、原因究明、再発防止の段階を踏みながら、防火対策及び管理体制のあり方を検討し、安全性の高い施設管理体制を構築することが必要である。

そのため、県が設置した「首里城火災に係る再発防止検討委員会」において、首里城火災に関する警察や消防の調査結果等を踏まえ、管理状況等の事実関係を確認・整理し、正殿等が全焼等に至った要因等の分析等の原因究明を行う。また、事実確認及び原因究明後、先進事例や新技術の調査等を踏まえて、適正な管理体制のあり方を検討する。

県は、同委員会の議論を踏まえて、令和2年度末を目標に、適正な管理体制のあり方を示した「首里城火災に係る再発防止策」を策定し、同防止策の策定後、国と連携して、管理計画等の具体的な検討を行い、首里城公園における安全性の高い施設管理体制の構築に取り組む。

### 3 首里城公園のさらなる魅力の向上

首里城公園は、歴史、文化の拠点として魅力ある施設整備を行ってきた。今後も引き続き、多くの人々が首里城や琉球王国の歴史を知り、そこから発する現在の琉球文化を感じる場となるよう、沖縄県は管理者として、設置者である国と連携し、下記の取組を進める。

#### (1) 国営・県営区域の一体的利用

首里城公園の展示、収蔵、解説、体験、行催事、飲食、休憩といった公園施設の用途について、国との連携のもと検討する。検討にあたっては、国営・県営区域を一体ととらえ、首里城の歴史や魅力を「物語」として体感できるよう、さらには利用者の快適な滞在・回遊性の確保に留意する。

特に、貴重な美術工芸品等の展示・収蔵については、最新技術を活用した適切な展示・収蔵に加え、修復作業を視野に入れて施設のあり方を検討するとともに、今般の被災状況に係る展示・解説等を加えるものとする。

#### (2) 多様で柔軟な施設の利活用

県は国と連携して、首里城の歴史や神聖な空間に配慮しつつ、多様で変化に富んだ施設利活用を検討する。具体的には、首里城が将来にわたって琉球の歴史・文化の象徴及び発信の場となるよう、鑑賞、見学、体験、交流等の学習や観光利用とともに、文化創造等、魅力ある場の形成をめざす。

### 4 文化財等の保全、復元、収集

今般の火災では正殿において展示・研究のために露出していた部分の遺構2か所が被災し、また収蔵品の多くも被災した。焼失又は被災した貴重な文化財等の復元や修復及び国内外へ散逸した文化財等の収集を行い、次世代へ継承するため、下記の取組を進める。

#### (1) 首里城跡の適正な保全と価値の周知

政府が発表した「首里城復元に向けた基本的な方針」においては、首里城跡の世界遺産登録に悪影響が及ばないよう、引き続きユネスコと緊密に連携しながら進めることが明記された。

県としても国と連携して遺構の劣化状況を的確に把握し、その価値が悠久に評価されるよう適切な保護を行い公開に取り組む。また、首里城跡や周辺文化財の発掘調査に関する成果の現地説明会を実施し、出土品の展示を行うなど、埋蔵文化財に関する情報発信にも積極的に取り組む。

#### (2) 文化財等の復元、修復及び収集

今般の火災では美ら島財団が所有していた収蔵品393点が焼失したものと思われ、焼失を免れた漆器類等も、熱や消火活動による水の影響で薄紙の付着、塗膜の劣化が見られ、一部熱で木型が変形している物もあり、修復にかかる費用や時間の目処は立っていない。

今回被災した文化財等は琉球の歴史、文化を知る上で重要な役割を果たしており、所有者との役割分担を明確にした上で、修復及び正殿等建物の復元にあわせた展示品等の復元についても積極的に支援する。

また、先の戦災等で散逸した琉球王国関係資料に関する研究を行うとともに、国内外に所在する王国時代の資料収集に引き続き取り組む。

## 5 伝統技術の活用と継承

首里城の城郭や木造建築群を支える建築技術、また染織、漆器、陶器などの美術工芸品に生かされている伝統技術は、琉球王国時代から脈々と受け継がれ、沖縄らしさの源流となっている。

そのため県内の関係機関と連携し、伝統技術を活用、継承するため、下記の実施を進める。

### (1) 伝統的な建築技術の活用と継承

首里城正殿等には、独特の赤瓦や漆塗りなど伝統的な建築技術が施されており、そのような建築技術は、前回復元時から施設修繕等で県内職人を活用することなどにより、蓄積、継承されてきている。

今回の復元がなされた後においても、首里城正殿等の維持保全や県内建築物に活用できるよう、伝統的な建築技術を蓄積、継承するとともに、技術者の確保、育成に取り組んでいく。

### (2) 美術工芸における伝統技術の継承

琉球王国時代から相伝する8つの手わざ(絵画、木彫、石彫、染織、漆芸、陶芸、金工、三線)について、模造復元から得られた調査研究の成果や復元過程の記録の公開など、広く情報発信に取り組み、「技」を継承するために技術者の育成、材料や道具類の確保に取り組む。

また、美術工芸品等の修繕に関わる技術者の育成・継承について取り組み、沖縄伝統工芸品の修復拠点となるべく県立芸術大学を中心に首里城の伝統技術に関する教育の推進についても検討を行うと同時に、県内大学等との連携を図る。

各技術の伝承者養成に向けては関連する保存会等の支援を引き続き行う。

## 6 「新・首里杜構想」による歴史まちづくりの推進

首里城を中核とする一帯(首里杜地区)は、世界遺産である首里城跡を保護する緩衝地帯(バッファゾーン)となっている。

今回の首里城復興にあたり、古都首里のまちづくりの方向性を示した「首里杜構想」を社会環境の変化や時代のニーズを踏まえて見直すことにより、首里杜地区が琉球文化を体現できる場となるよう、地域住民や関係機関と連携し、下記の実施を進める。

### (1) 歴史を体現できる風格ある都市空間の創出

世界遺産である首里城跡、園比屋武御嶽石門（そのひゃんうたきいしもん）、玉陵（たまうどうん）を含む地域の魅力を高めるために、首里城公園を含めた首里地域における歴史を体現できる風格ある都市空間（歴史的風致）の維持・向上をめざす。王都としての歴史的な名残や、赤瓦葺きの建物、石垣や道なども再生されつつあり、これら古都・首里ならではの固有性を守り育てながら、千年悠久の歴史まちづくりをめざした景観の形成に取り組む。

### (2) 首里城公園及び周辺地域の段階的整備

首里城公園及び周辺地域については、地域に残された文化資源や、かつてのまちなみを段階的に整備し、点的・面的に奥行きのある公園やまちづくりが重要である。

そのため、県営公園区域にある中城御殿跡や円覚寺跡等の復元を計画的に進めていく。また、御茶屋御殿跡など地域に点在する文化資源については、国や那覇市と連携のうえ段階的な整備に向けた検討を進めるとともに、官民連携のもと地域を周遊及び文化を体感できる拠点やネットワーク（スージグワー等）の形成を図る。

### (3) 交通環境の整備

多くの来訪者が訪れる首里地域において、公園に訪れるレンタカーや観光バス、タクシーに起因した交通渋滞が地域の課題となっている。

こうした都市交通の課題に対し首里城と周辺地域の歴史まちづくりを推進するためにも、回遊性の高い快適な歩行空間を提供し、地域住民と来訪者が共存できる観光交通や公共交通の利便性向上・充実に併せ、地区周辺の駐車場の確保に加え、ICT を活用した交通情報の提供など、ハード・ソフト面からまちの魅力を支える取組を展開する。

## 7 歴史の継承と資産としての活用

戦火等により灰燼に帰しながらも、平和と繁栄の象徴として繰り返し復元されてきた首里城の歴史、文化はもとより、これから先、長い年月をかけて取り組んでいく首里城の復興過程を次世代に継承し、その価値を発信していくことは非常に重要である。

そのため、首里城及びその周辺地域の観光資源を活用し、その価値を発信するとともに、子どもたちが観て、学ぶことができるよう下記の取組を進める。

### (1) 多様で魅力ある観光資源の活用

首里地域に点在する石畳道や屋敷石垣、御嶽や井泉をはじめ、地域ごとの特色ある生活文化は国内外から訪れる来訪者にとって魅力的な歴史・文化的遺産であり、地域に根ざした伝統産業を含めた潜在的な魅力を観光価値化し活用していく必要がある。

そのため、国と連携して首里の魅力を体験できる周遊ルートの提案、地域の歴



史、文化、生活様式を学び、体験できる観光商品の開発支援に取り組むとともに、観光資源を保全するため地域の文化財の保護、地域行事の継承などの支援に取り組む。

### (2) 平和を希求する「沖縄のこころ」の発信

悲惨な沖縄戦の実相を正しく後世に伝え、平和を希求する「沖縄のこころ」を広く世界に発信していくことは沖縄県の重要な責務である。

そのため、第32軍司令部壕などの首里城周辺の戦争遺跡を保存、継承するとともに、証言記録、調査資料等と AR 等の ICT を活用した平和学習ツールの開発・提供など、その歴史的価値の継承及び平和発信に向けた環境整備に取り組む。

### (3) 次世代を担う子どもたちへの継承

子どもたちが首里城の復興を通して、多くの人々の思いや努力が結実していく姿を実際に見て、感じるとともに、地域の歴史、文化を学ぶことは、「チムグル」「イチャリバチョーデー」「ユイマール」といった沖縄らしい個性をもった人材育成につながるだけでなく、伝統文化の保存、継承、地域振興につながっていく重要な取組である。

そのため、那覇市など関係機関と連携し、子どもたちに琉球の歴史、文化を観て、学び、体験できる場を提供するとともに、その活動支援に取り組む。

## 8 琉球文化のルネサンス

沖縄はアジア諸国との交易を通し、多様な文化芸術を受け入れ、独自の文化を築いてきた。

首里城は琉球王国の政治・外交・宗教上のネットワーク拠点であり、首里城とその周辺は文化芸術の中心であった。

首里城の焼失により改めてその価値が再認識された琉球文化のルネサンスを興し、将来に向けてその価値を高め、万国津梁の精神を世界へ発信するため、下記の取組を進める。

### (1) 多様性・独自性を持つ琉球文化の再認識

島しょ県である本県は、地域ごとに特色ある生活文化を有し、温暖な気候、風土の中で外からの文化を受け入れ、自らの文化として体現してきた。

首里城内の宮中文化に加え、多様性・独自性のある沖縄各地の地域文化の価値を再認識するとともに、これら魅力ある地域資源を普及・継承していく取組を行う。

また、首里城やその周辺地域で育まれた琉球文化の魅力について、学術的に研究する拠点づくりについて検討する。

### (2) 琉球文化の復興と新たな文化の創出

2019年に300周年を迎えた「組踊」は首里城から生まれた琉球独自の芸能

であり、幾多の世代わりを経ながらも脈々と守り受け継がれ、ユネスコの無形文化遺産にも登録されている。文化芸術は人々が心豊かに生き、活力ある社会を築き、世界と友好を深めていく基盤として欠かせないものである。

また、沖縄が世界に誇る伝統文化である空手は、首里王府時代に士族の嗜みとして発達したとされ、首里城との歴史的な繋がりが深い。

先人の「万国津梁」の精神を受け継ぎ、これからの時代にふさわしい新たな文化芸術を創造する場としての首里城をつくと共に、県民の感動体験の機会を創出する拠点としての首里城公園の活用を検討する。

### (3) 国内外へ向けた琉球文化の発信

令和元年度『琉球王国時代から連綿と続く沖縄の伝統的な「琉球料理」と「泡盛」、そして「芸能」』が日本遺産に認定された。このストーリーを国内外へ広く発信すると同時に、沖縄の多様な文化等に関し、琉球大学を中心とした国内外の大学等による学術面での評価・発信や世界のウチナーンチュネットワーク等を活用して展開する取組等について検討する。

### (4) 琉球文化を活用した産業振興

本県独自の伝統的な食文化や伝統工芸、芸能等はその技術を高く評価されていることから、これらの伝統技術を現代のライフスタイルにおいて広く活用するための商品開発や販路開拓等を支援し、伝統文化を活用した産業振興を図る。

## 9 基本計画の策定・推進

基本的な考え方、基本方針に基づき、長期的展望に立って首里城復興を効率的・計画的に進めていくためには具体的な施策や行程表を盛り込んだ基本計画を定め、各種施策を着実に進めていくことが重要である。

そのため、計画策定にあたっては、県民の意見はもとより、国、那覇市などの関係機関、各分野の専門家の意見を十分に踏まえるとともに、県内の高等教育機関や研究機関と連携を図り、首里城復興に向け、県民のみならず国内外の多くの方々から参画できるように下記の取組を進める。

### (1) 県民の意見を踏まえた基本計画の策定

本基本方針に沿って、首里城復興に向けた基本計画を令和2年度末までに策定し、各種財源の確保についてもあわせて検討する。

なお、計画策定にあたっては、基本計画策定に係る委員会等を設置し、国、那覇市など関係機関や、専門家や経済、観光、文化などの各種団体等の意見を踏まえなど連携を行う。また、シンポジウム、ワークショップなどを通じて県民をはじめ、国内外の復興を願う人々の意見も幅広く取り入れていく。

### (2) 国内外の学術ネットワークとの連携

社会的ニーズが多様化する中、大学や研究機関においては、学術研究や人材育成など本来の役割だけでなく、各機関が有する「知の資源」を有効に活用した

地域貢献が求められている。

そのため、琉球大学をはじめとする県内高等教育機関や研究機関が有する知見や国内外とのネットワークを活用し、首里城復興に向けた取組を協議する場を設ける。

### (3) 県民等の継続的な参加による復興

首里城の復興は県民をはじめ国内外の多くの方々の継続的な参画により進めていくことが重要であり、長い年月を要することが見込まれる。

既に国内外において民間主体による様々な活動が進められていることから、その活動が連携し合い、広く情報発信をすることにより多くの方々が復興に参画できる仕組み作りに取り組む。

※「首里城復興の基本的な考え方」と「首里城復興基本方針」は、県ウェブサイトに掲載  
<https://www.pref.okinawa.lg.jp/site/chijiko/tokumei/kihonhoshin.html>

## (7) 沖縄県首里城復興基金の活用に関する方針

### 沖縄県首里城復興基金の活用に関する方針

令和2年7月30日 知事決裁

首里城火災（令和元年10月31日に国営沖縄記念公園首里城地区内にある正殿その他これに関連する施設が消滅した火災をいう。以下同じ。）からの復興を目的とする費用の財源に充てることを目的に設置した沖縄県首里城復興基金（令和2年3月16日沖縄県条例第3号。以下「基金」という。）の有効活用を図るため、この方針を定める。

（基金活用の基本原則）

第1 基金は、一日も早い首里城火災からの復興を願う国内外を含めた県内外からの寄附金によって積み立てられていることから、県民はもとより県内外の人びとの想いを尊重し、基金条例第1条で定める目的（首里城火災からの復興）の範囲内において活用する。

（基金の活用方法）

第2 第1の基本原則に基づき、焼失した首里城の城郭内の施設等の復元に関し、主として次の事業のうち、国営公園事業である首里城の復元に取り組む国と協議、調整が整った事業に充当する。

(1) 正殿の木材調達に関する事業

(2) 正殿の赤瓦調達に関する事業

(3) 大龍柱等の石彫刻、唐破風妻飾等の木彫刻及び龍頭棟飾等の焼物など、屋外彫刻の復元に関する事業

(4) 扁額などの室内装飾の復元に関する事業

(5) 第1号から第4号のほか、首里城正殿、北殿及び南殿等の復元に関する事業

2 前項に掲げる事業の実施にあたっては、沖縄県内に蓄積、継承されている伝統技術を積極的に活用するものとする。

（予算措置）

第3 基金を活用する事業の予算措置は、事業の所管課において行うものとする。

（基金の管理）

第4 基金の管理は、土木建築部都市公園課において行うものとする。

（使途等の公表）

第5 第2に掲げる事業を実施する課は、事業実施決定時及び事業完了後速やかに基金の使途等を公表するものとする。

2 使途等の公表については、沖縄県ホームページにおいて行うとともに、プレスリリース及びSNS等の媒体を積極的に活用するものとする。

（委任）

第6 この方針に定めるもののほか、基金の活用に関し必要な事項は、知事が別に定める。

附 則

この方針は、令和2年7月30日から適用する。

### 3 県民等意見の聴取

#### (1) 令和の首里城復興 Zoom 座談会

令和の「首里城復興」の意義、首里城を中心とする歴史・文化の影響力や期待等について、県民とともに考える「Zoom 座談会」(全3回)を開催。アーカイブ動画を YouTube にて配信した。

#### 第1回 首里城復興の意義について

【開催日】2020年12月9日(水)

【登壇者】(☆…進行・ファシリテーター)

- ・高良倉吉(琉球大学名誉教授、首里城復元に向けた技術検討委員会委員長)
- ・伊良波朝義(NPO 法人首里まちづくり研究会理事長)

☆崎山律子(那覇市文化協会会長、首里城復興基本計画に関する有識者懇談会委員)



#### 座談会の主な意見(第1回)



高良

平成の復元の最大のテーマは、首里城という建築空間を誰の目にも分かるよう復元することだった。それから30年の時間をかけて、静かに人々の中に届いていった。

令和の復元は建物の再現だけで終わらせるのではなく、先人が積み上げてきた「琉球」というものを、さまざまな地域や年代で等身大に考えるとき。

今回はもう一度文化を見直すといった心の復興ではないか。ほかの地域も含めてまちづくりを考え直すきっかけとなってほしい。

首里城の復興を契機に「現代にあった首里のまちをどうするのか。交通問題をどうするのか。」など共に考えたい。



伊良波

## 第2回 「首里城を中心とする歴史文化の再認識と復興とは？」

【開催日】2020年12月18日（金）

【登壇者】（☆…進行・ファシリテーター）

- ・ 稲福政志（琉球大学法文学部学生）
- ・ 照屋綺恵（沖縄県立芸術大学音楽学部学生）
- ・ Lynn Miyahira（ハワイ沖縄連合会会長）
- ・ 宮良みゆき（久米島博物館主任学芸員）
- ・ 桃原薫（多良間村教育委員会文化財担当）

☆いのうえちず（NPO 法人首里まちづくり研究会副理事長）



### 座談会の主な意見(第2回)



稲福

首里城がなくなって悲しかったが何なのかわからないというような世代や人々を置いてきぼりにしないでほしい。

首里城は本当に観光地としてあるべきなのか。歴史的価値をもっと県民に知ってもらうことで、本当の意味での再建になるのではないだろうか。



リン

世界のウチナーンチュにとって首里城はシンボルとして大きなもの。世界中の人に首里城の魅力や誇りに気づいてほしい。  
今の時代は Web で簡単につながることもできる。

キャリア教育として、沖縄の文化にふれる機会を提供することが重要。離島への情報発信など、首里城に離島民が関わりを持って、子どもたちが身近に感じる機会を与えてほしい。



宮良

首里城と久米島の関係を知ることで、子どもたちも身近に感じるができる。何気ない日常が多くの人々の努力と幸運の積み重ねで営まれていると気づき、みんなが共有することで、本当の再建につながると思う。



照屋



桃原

## 第3回 首里城復興基本計画について

【開催日】2021年2月22日（月）

【登壇者】（☆…進行・ファシリテーター）

- ・下地芳郎（OCVB 会長、有識者懇談会会長）
- ・池田孝之（琉球大学名誉教授、新・首里杜構  
想検討部会長）
- ・波照間永吉（名桜大学教授、琉球文化継承・  
振興検討部会長）
- ・島袋芳敬（沖縄県政策調整監）

☆屋比久義（沖縄県知事公室特命推進課課長）



### 座談会の主な意見（第3回）



波照間

首里城に象徴される、祖先が築き上げた琉球・沖縄文化の精神がそこに込められなければ意味がない。地域芸能の復興と首里城の復元が関わることであれば、自分たちも復興にかかわるのだというムードが作り出せる。

風土や風景は100年、1000年かかる。「点・線・面」といわれるが、拠点となる「点」をしっかりと整備していくことが重要だ。

国・県・那覇市・住民・NPO・観光客など、みんなで一緒にやっていくためには協議会づくりがスタートになる。



池田

基本計画の先にある実行計画をしっかりと進め、次の沖縄振興計画に盛り込み具現化していくこと。

県民にもわかるよう「見える化」し、進捗管理を定期的に公開していくことが大切だ。



下地

首里城復興基本計画は、県だけでは実現できるものではない。行政がすべての力を結集して実現していくことが試されていると感じている。

応援団や協議会など、市民・県民参加で実現していきたい。



島袋

※座談会の映像は YouTube、議事概要は県（知事公室特命推進課）ウェブサイトに掲載  
<https://www.pref.okinawa.lg.jp/site/chijiko/tokumei/zoomzadannkai.html>

## (2) 「首里城復興基本計画(素案)」に対する意見募集

「首里城復興基本計画」の策定に向け、同計画(素案)について、県民はじめ、広く多くの方々からのご意見を募集した。

### 【募集期間】

令和3年2月9日(火)から令和3年2月22日(月)まで

### 【閲覧方法】

沖縄県のホームページにおける公開、及び下記の場所でも配布または閲覧  
沖縄県知事公室特命推進課(本庁舎6階)  
宮古行政情報コーナー(宮古合同庁舎1階)  
八重山行政情報コーナー(八重山合同庁舎1階)

### 【意見の提出方法】

「意見提出用紙」により、電子メールまたは郵送による提出

### 【意見件数】

7名16件(うち県外3名3件)

	人数	件数
県内	3名	12件
県外	3名	3件
不明	1名	1件
合計	7名	16件

その他募集期間後に1件提出あり

※ご意見の全文は県(知事公室特命推進課)ウェブサイトに掲載

<https://www.pref.okinawa.lg.jp/site/chijiko/tokumei/iken.html>



## 4 首里城復興への取組状況

※関係主体欄の「美」は、(一財)沖縄美ら島財団

年月日	関係主体	出来事
令和元年 10月31日	首里城火災発生	
	県	「首里城火災対策本部」の設置、玉城知事が現場確認
11月1日	県	玉城知事が菅官房長官へ首里城火災の報告
11月4日	国	衛藤晟一沖縄担当大臣が現地を視察
11月6日	国	首里城復元のための関係閣僚会議(第1回)
11月7日	国	首里城復元のための関係閣僚会議幹事会(第1回)
	県	首里城復旧ワーキンググループの設置
11月18日	県	「首里城復興戦略チーム」を設置
11月19日	県	第1回 首里城復旧ワーキンググループ会議
11月20日	国	宮田亮平文化庁長官が現地を視察
11月25日	国	首里城復元のための関係閣僚会議幹事会(第2回)
12月2日	国	首里城復元のための関係閣僚会議(第2回)
12月6日	県	第2回 首里城復旧ワーキンググループ会議
12月10日	美	第1回 首里城美術工芸品等管理委員会
12月11日	国	首里城復元のための関係閣僚会議(第3回) 「首里城復元に向けた基本的な方針」を発表
12月12日	県・国・美	公園利用区域の拡大 (2.6ha 開園 公園全体で約9.8ha 開園)
12月14日	県・国・美	公園利用区域の拡大 (0.2ha 開園 公園全体で約10.0ha 開園)
12月17日	県	第3回 首里城復旧ワーキンググループ会議
12月21日	国	菅義偉官房長官が現地を視察
12月21日	県・国・美	ライトアップ一部再開
12月26日	県	玉城知事が「首里城復興に向けた基本的な考え方」を発表

年月日	関係主体	出来事
12月27日	国	第1回 首里城復元に向けた技術検討委員会
令和2年 1月1日	国	首里城復元整備推進室を設置
1月6日	県	県庁ロビーにて「首里城写真展」の開催(～10日)
1月9日	県	第4回 首里城復旧ワーキンググループ会議
1月22日	県	第5回 首里城復旧ワーキンググループ会議
1月28日	県	第1回 首里城復興基本方針に関する有識者懇談会
1月29日	沖縄県警	「令和元年10月31日発生 of 首里城大火災の捜査結果について」発表(刑事部捜査第一課) ・ 放火等の犯罪に該当する事実は見当たらない ・ 出火原因の特定には至らなかった ～火災現場の規制解除
2月4日	県・国・美	報道機関、地元住民へ火災現場を公開
2月5日	国	第1回 彩色・彫刻ワーキンググループ会議 (首里城復元に向けた技術検討委員会)
	県	第6回 首里城復旧ワーキンググループ会議
2月6日	県・那覇市	知事と那覇市長の首里城寄附金に関する面談
2月7日	国	第1回 防災及び第1回木材・瓦合同ワーキンググループ会議 (首里城復元に向けた技術検討委員会)
2月10日	国	首里城正殿等復元に係る工事の着手
2月13日	県	第2回 首里城復興基本方針に関する有識者懇談会
2月19日	国	第2回 首里城復元に向けた技術検討委員会
2月26日	国	第2回 防災WGワーキンググループ会議 (首里城復元に向けた技術検討委員会)
2月27日	国	大龍柱応急処置の着手
3月2日	県	第7回 首里城復旧ワーキンググループ会議
3月3日	国	第2回 木材・瓦類及び第2回 彩色・彫刻ワーキンググループ 会議(首里城復元に向けた技術検討委員会)
	美	第2回 首里城美術工芸品等管理委員会
3月5日	国	大龍柱養生作業の着手

年月日	関係主体	出来事
3月6日	那覇市 消防局	「首里城公園火災に伴う出火原因の判定について」発表 ・火災原因の特定は難しく、出火原因については不明
3月12日	県	第3回 首里城復興基本方針に関する有識者懇談会
3月13日	国	第3回 首里城復元に向けた技術検討委員会
3月16日	県	「沖縄県首里城復興基金」の創設
3月17日	国	首里城正殿等の復元の工程表策定に向けた技術検討に関する報告
3月18日	県	第1回 首里城火災に係る再発防止検討委員会
3月23日	県・国・美	首里城赤瓦の漆喰はがしボランティア開始(～4月4日) 参加者数:937人、作業枚数:6,843枚
3月24日	県	第4回 首里城復興基本方針に関する有識者懇談会
3月25日	県	第8回 首里城復旧ワーキンググループ会議
3月27日	国	首里城復元のための関係閣僚会議(第4回) 「首里城正殿等の復元に向けた工程表」を発表
3月30日	県	「首里城復興基本方針」に関する有識者懇談会より玉城知事 へ検討結果の報告
3月31日	国	首里城施設の一部撤去工事着手(北殿)
4月1日	県	特命推進課の新設
	県・国・美	首里城破損瓦等利活用アイデア募集(～5月29日) 申込数:24件
4月6日	県	第2回 首里城火災に係る再発防止検討委員会
4月24日	県	玉城知事が「首里城復興基本方針」を発表
5月21日	国	令和2年度 第1回 首里城復元に向けた技術検討委員会
5月27日	県・国・美	第1回 首里城破損瓦等利活用アイデア審査会(4月分) 4件決定
	県	第1回 首里城復旧・復興ワーキンググループ会議
6月12日	県・国・美	首里城正殿遺構等一般公開
6月15日	県	第1回 首里城復旧・復興推進本部会議

年月日	関係主体	出来事
6月25日	県	玉城知事の首里城視察
6月26日	県・国・美	第2回 首里城破損瓦等利活用アイデア審査会(5月分) 15件決定
7月22日	国	大龍柱補修作業場整備の本格着手
7月28日	県	県庁ロビーにて「破損瓦等利活用アイデアパネル展」の開催 (~31日)
7月31日	県	玉城知事が「沖縄県首里城復興基金の活用に関する方針」 を公表
	国・県・美	破損瓦等利活用アイデア認定証交付式
8月2日	県・国・美	沖縄県の緊急事態宣言に伴い首里城公園有料区域閉園 (~9月5日)
8月3日	県	第2回 首里城復旧・復興ワーキンググループ会議
8月21日	県	第3回 首里城火災に係る再発防止検討委員会
8月27日	県	第2回 首里城復旧・復興推進本部会議
8月28日	国	大龍柱の移動に向けた準備作業 仮施設整備の本格着手
8月31日	県	沖縄県公式首里城復興サイト「首里城がつなぐ過去から未来へ」開設
9月9日	県	玉城知事が、首里城正殿の大径材を県が調達する事業を実施することについて国に要請
9月11日	県	第3回 首里城復旧・復興ワーキンググループ会議
		首里城火災に係る再発防止検討委員会中間報告
9月14日	県	第1回 首里城復興基本計画に関する有識者懇談会及び 新・首里杜構想検討部会、琉球文化継承・復興検討部会 合同会議
9月23日	国	大龍柱移動のための取り外し作業着手
9月23日	県・国	「首里城正殿復元工事に用いる大径材の譲渡に関する覚書」 を締結
9月25日	国	令和2年度 第2回 首里城復元に向けた技術検討委員会 ~構造材(大径材)の樹種選定方針の決定~

年月日	関係主体	出来事
9月30日	県・国	首里城正殿復元工事に用いる大径材の内、柱材と小屋丸太梁材は沖縄県が調達し、国に無償譲渡することについて合意
10月21日	県	第4回 首里城復旧・復興ワーキンググループ会議
10月23日	県	第2回 琉球文化継承・振興検討部会
	県	玉城知事が、定例記者会見において首里城火災から1年を迎えるにあたってのメッセージを発表
	国	大龍柱の補修作業の本格着手
10月24日	県	首里城火災に係る再発防止検討委員会 県外先進事例調査(姫路城、妙心寺、清水寺 ～25日)
	県・国・美	首里城赤瓦の漆喰はがしボランティア再開(～12月25日)参加者数:2,093人、作業枚数:11,887枚
10月28日	県	第2回 新・首里杜構想検討部会
10月30日	県	Google & and Culture「首里城復興」の公開
		首里城プロジェクションマッピング及び首里城復興沖縄空手演武会の開催(10月30日～11月1日)来場者数:7,106人
10月31日	首里城火災から1年	
	県	首里城復興イベント ものづくり体験×地域連携交流の開催(10月31日、11月1日、3日、7日、8日)来場者数:3,379人
	県	首里城復興展示室等の供用開始
11月24日	県	第5回 首里城復旧・復興ワーキンググループ会議
11月25日	県	第4回 首里城火災に係る再発防止検討委員会
	美	第3回 首里城美術工芸品等管理委員会
11月26日	国	令和2年度 第3回 首里城復元に向けた技術検討委員会～正殿の梁に県産木材を使用することを決定～
11月27日	県	第2回 首里城復興基本計画に関する有識者懇談会
11月30日	国	大龍柱補修作業の完了
12月9日	県	第1回 令和の首里城復興 Zoom 座談会～首里城復興の意義について～

年月日	関係主体	出来事
12月11日	国	首里城工事用仮設道路整備の本格着手
12月15日	県	第3回 首里城復旧・復興推進本部会議
12月18日	県	第2回 令和の首里城復興 Zoom 座談会 ～首里城を中心とする歴史・文化の再認識と復興とは?～
	県・国	世誇殿 VR コンテンツの運用開始
12月21日	県	第3回 琉球文化継承・振興検討部会
	国	令和2年度 第1回彩色・彫刻ワーキンググループ会議 (首里城復元に向けた技術検討委員会)
	県・国	「首里城正殿復元工事に用いる赤瓦の譲渡に関する覚書」を締結
12月22日	県・国	沖縄県が調達する大径材の一部の樹種変更について合意
	県・那覇市	那覇市より首里城再建支援寄附金の贈呈
12月23日	県	第3回 新・首里杜構想検討部会
12月25日	国	令和2年度 第1回木材・瓦類ワーキンググループ会議 (首里城復元に向けた技術検討委員会)
令和3年 1月4日	県・国・美	首里城火災破損瓦等の活用事業(2次募集) (～1月29日) 申込数:14件
1月18日	国	首里城奉神門応急復旧工事の瓦葺き作業着手
1月19日	県	第5回 首里城火災に係る再発防止検討委員会
1月22日	県	第1回 第32軍司令部壕保存・公開検討委員会
1月26日	国	令和2年度 第1回防災ワーキンググループ会議 (首里城復元に向けた技術検討委員会)
1月30日	県	首里城復興イベント ものづくり体験×地域連携交流の開催 (1月30日、1月31日、2月6日、7日) 来場者数:929人
2月8日	県・国・美	首里城火災破損瓦等の活用事業(2次募集)14件の決定
	県	第3回 首里城復興基本計画に関する有識者懇談会
2月9日	県	「首里城復興基本計画(素案)」に対する意見募集 (～2月22日) 件数:7名16件(うち県外3名3件)

年月日	関係主体	出来事
2月22日	県	第3回 令和の首里城復興 Zoom 座談会 ～首里城復興基本計画について～
2月26日	国	令和2年度 第2回防災ワーキンググループ会議 (首里城復元に向けた技術検討委員会)
3月3日	国	令和2年度 第2回木材・瓦類ワーキンググループ会議 (首里城復元に向けた技術検討委員会)
3月9日	県	首里城復興基本計画に関する有識者懇談会より議論結果の報告
3月10日	国	令和2年度 第2回彩色・彫刻ワーキンググループ会議 (首里城復元に向けた技術検討委員会)
3月11日	美	第4回 首里城美術工芸品等管理委員会
3月16日	県	第4回 首里城復旧・復興推進本部会議
3月17日	県	第6回 首里城火災に係る再発防止検討委員会
3月20日	県・国・美	首里城赤瓦の漆喰はがしボランティアの再開(～4月18日)
3月25日	国	令和2年度 第4回 首里城復元に向けた技術検討委員会
3月29日	県	「首里城復興基本計画」を策定

## 5 国及び関係機関の体制・方針等

### (1) 首里城復元に向けた技術検討委員会(国)

「首里城復元のための関係閣僚会議」(議長:内閣官房長官)において、12月11日、「首里城復元に向けた基本的な方針」が決定された。これを受け、沖縄総合事務局では、首里城復元に向けた技術的な検討を行うことを目的として、「首里城復元に向けた技術検討委員会」を設置する。

#### ■委員名簿(令和2年9月25日時点)

首里城復元に向けた技術検討委員会 委員名簿

※委員については五十音順 協力委員については建制順

	氏名	役職名
委員長	高良 倉吉	琉球大学名誉教授
委員	安里 進	沖縄県立芸術大学名誉教授
委員	伊従 勉	京都大学名誉教授
委員	小倉 暢之	琉球大学名誉教授
委員	関澤 愛	東京理科大学研究推進機構総合研究院教授
委員	田名 真之	沖縄県立博物館・美術館館長
委員	長谷見 雄二	早稲田大学理工学術院創造理工学部建築学科教授
委員	波照間 永吉	沖縄県立芸術大学名誉教授
委員	室瀬 和美	東京藝術大学客員教授
委員	涌井 史郎	東京都市大学特別教授
協力委員	安邊 英明	内閣府沖縄振興局参事官(振興第一担当)
協力委員	白石 暢彦	消防庁予防課長
協力委員	伊藤 史恵	文化庁文化資源活用課長
協力委員	眞城 英一	林野庁林政部木材産業課長
協力委員	植木 暁司	国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課長
協力委員	五十嵐 康之	国土交通省都市局公園緑地・景観課長
協力委員	深井 敦夫	国土交通省住宅局建築指導課長
協力委員	大野 達	観光庁総務課長
協力委員	金城 弘昌	沖縄県教育長
協力委員	渡久地 一浩	沖縄県文化観光スポーツ部長
協力委員	上原 国定	沖縄県土木建築部長

事務局:内閣府沖縄総合事務局開発建設部 建設産業・地方整備課



■開催一覧

令和元年度

開催時期	会議	内容
令和元年 12月27日	第1回首里城復元に向けた 技術検討委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 首里城正殿等火災の状況</li> <li>・ 前回復元時の概要</li> <li>・ 首里城正殿復元の主な課題</li> <li>・ 大龍柱の損傷状況</li> <li>・ 今後の進め方について</li> </ul>
2月19日	第2回首里城復元に向けた 技術検討委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各ワーキンググループにおける検討内容の報告</li> <li>・ 首里城正殿等の復元の工程表策定に向けた技術的検討 等</li> </ul>
3月13日	第3回首里城復元に向けた 技術検討委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各ワーキンググループにおける検討内容の報告</li> <li>・ 首里城正殿等の復元の工程表策定に向けた技術的検討 等</li> </ul>

令和2年度

開催時期	会議	内容
令和2年 5月21日	第1回首里城復元に向けた 技術検討委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和2年度技術検討委員会について</li> <li>・ 前回復元時の首里城正殿等の設計について</li> </ul>
9月25日	第2回首里城復元に向けた 技術検討委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 首里城復元に向けた取組みについて</li> <li>・ 構造材(大径材)の樹種選定方針について</li> <li>・ 防火対策等の検討状況について</li> <li>・ その他</li> </ul>
11月26日	第3回首里城復元に向けた 技術検討委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 首里城復元に向けた取組みについて</li> <li>・ 首里城正殿の防火対策等について</li> <li>・ 構造材(大径材)の使用部位等について</li> <li>・ 彩色・彫刻の検討状況について</li> </ul>
3月25日	第4回首里城復元に向けた 技術検討委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和2年度首里城復元に向けた取組みについて</li> <li>・ 防災関係の検討状況について</li> <li>・ 木材・瓦類の検討状況について</li> <li>・ 彩色・彫刻の検討状況について</li> <li>・ 令和3年度の技術検討について</li> <li>・ その他</li> </ul>